

【2018年10月1日から当院にて心電図検査を受けられた患者さんへ】

当研究の対象者として該当される方にお知らせ致します。対象とされることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、お手数ですが下記連絡先までご連絡ください。

【研究タイトル】

心電図所見の疫学調査

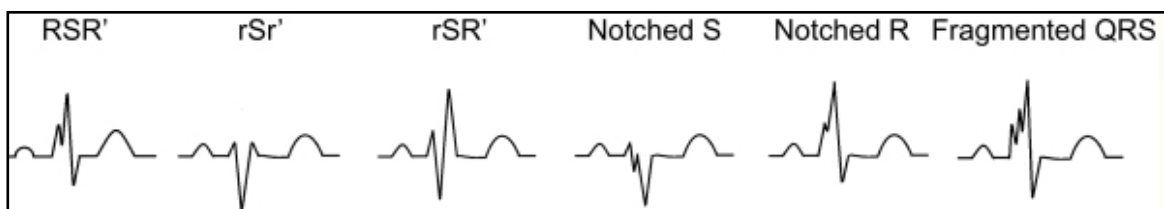
【研究背景・目的】

日本は今、超高齢化の時代を向かえており、病院に来院する患者さんの内訳も大きく変化し、高齢者に発症のピークを迎える疾患が増加することが予測されています。高血圧、弁膜症、急性心筋梗塞といった循環器疾患は今後も増加すると見込まれています。中でも急性心筋梗塞といった冠動脈疾患（急性冠症候群）の診断・治療はまさに時間との戦いであり、1枚の心電図が診断の決め手になることが多々あります。その有用性は心電計の発明者 Einthoven が 1903 年に心電図検査を発明してから 100 年以上が経過しても全く変わりません。

近年、心電図の QRS 波形が患者さんの予後と関連することが明らかになってきました。2006 年に Das¹⁾らによって、分裂した QRS 波 (Fragmented QRS) が従来の知見 (異常 Q 波) よりも過去の心筋梗塞の存在を示したと結論づけたことから、その後も Das らやその他の研究者によって Fragmented QRS と患者さんの予後との関連が明らかになってきました。しかし、それらの殆どは欧米人を対象としたもので、日本人を対象とした研究は殆ど見当たりません。また心電図異常が必ず出現する心筋疾患を対象とした研究については、ほとんど見当たらないのが現状です。

今回、当院が筑豊地区の循環器診療の拠点病院であるという強みを活かして、心電図に関するデータベースを構築し、それをもとに様々な臨床的意義を発見することで、臨床現場と患者さんに還元することを目的に研究を行います。

1) Das MK, et al. Significance of a fragmented QRS complex versus a Q wave in patients with coronary artery disease. Circulation. 2006;113:2495.



【研究期間・取得情報】

- ・研究期間は、2019年1月4日から2020年3月31日
- ・対象：2018年10月1日から2019年12月29日までに当院に入院し、急性冠症候群または心筋疾患の診断または疑いで精査・加療を受けた、または今後受ける予定の患者さん
- ・取得情報：診療録から以下の情報を収集します
 - 基本患者情報（年齢、性別、体格、循環器疾患の既往）
 - 循環器関連の臨床検査値（血球計算値、心筋逸脱酵素、心筋バイオマーカー）
 - 心電図検査・心臓超音波検査・冠動脈造影の所見
 - 入院の転帰・再入院の有無

【個人情報の取扱い】

研究の際の個人情報の取り扱いは、研究責任者により厳重に管理され、外部への研究発表の際には患者さん個人を特定する情報は含まないようにして行います。研究の対象となることを望まない旨の申し出があった場合には、ただちに研究対象から除外します。なお、匿名化（データの識別のために個人を特定できる情報を番号・記号等に置き換えること）を行った後の患者さんの情報については、研究から除外できない場合もありますのでご了承下さい。

【診療記録(カルテ)等の開示について】

当院は、研究に使用しました患者さんの診療記録等について、患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の「患者情報の提供等に関する指針」に従って対応いたします。当院の診療記録等に関してのご質問や患者さんの個人情報のお問い合わせは、下記、「問い合わせ先」にてお受けいたします。

- ・診療記録を複写・印刷する場合の料金：枚数×20円＋消費税

【研究組織】

研究責任者：飯塚病院 臨床研究支援室 古賀 秀信

【問い合わせ先】

飯塚病院 臨床研究支援室 古賀秀信
〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3-83
TEL：0948-22-3800（代表）